

学校行事が小学生の精神的充足と社会的適応力の継時的変化に与える影響

Effects of School events on Successive Change of elementary school students' Psychological well-being and Social Competence

山中 徳子 (Tokuko Yamanaka) 指導：菅野 純

1. 問題と目的

小学校教育において、社会的適応力を育成することは社会的自立の基盤を育成するということでもある。本研究では、小学校教育における代表的な学校行事である「林間学校」「運動会」「音楽会」を取り上げる。そして、それらへの積極的な取組が、児童の精神的充足や社会的適応力の継時的変化にどのような影響を与えるかについて検討することを目的とする。

2. 方法と結果

- ①調査対象：埼玉県南西部の公立小学校
・学級担任・管理職・指導主事等の教師（男11名、女19名）
・小学校2校に在籍する5年生（男子62名、女子66名）

- ②調査期間：2010年6月～11月

研究Ⅰ 社会的適応力の育成に関わる基盤の検討

- ①調査材料：質問紙（先行研究を参考にオリジナルで作成）
・「学校行事で育成したい社会的適応力」教師用（選択式）
・「学校行事への期待度」児童用（4件法）
②結果：教師が育成したい社会的適応力として、「状況を正しく判断する」、遠足・集団宿泊的行事における「自分をコントロールする」、「人とうまくやっていく」は100%の選択率であった。児童の学校行事への期待度は80%以上が「楽しみ・やや楽しみ」と回答しており、特に「林間学校」におけるその割合は93.8%であった。また、男女別平均値によるt検定の結果、「運動会」($p<.05$),「音楽会」($p<.001$)で女子の期待度が男子に比較して有意に高かった。

研究Ⅱ 精神的充足と社会的適応力の実態に関する検討

- ①調査材料：心理尺度
・「精神的充足・社会的適応力評価尺度」KJQ(菅野, 2007)
②結果：児童の精神的充足の得点により平均±1/2SDを基準に群分けを行い「社会的適応力」の得点を比較した結果「精神的充足」が高い群は、低い群に比して「社会的適応力」が有意に高かった ($p<.001$)。

研究Ⅲ 学校行事への積極的な取組による

社会的適応力の獲得に関する検討

- ①調査材料：心理尺度
・「精神的充足・社会的適応力評価尺度」KJQ(菅野, 2007)
・「学校生活スキル尺度小学生版」(山口ら, 2005)の一部
②結果：A小学校において学校行事への積極的な取組を促

すことを意図して集団活動スキルとコミュニケーションスキルを標的としたエクササイズを実施した。エクササイズは研究実施者による通常プログラム(45分)3回と、その後担任が行うショートプログラム(20分)3回から構成されている。

介入を行わないB小学校との比較のため、群(A小, B小)と時期(6月, 11月)を要因とする分散分析を行ったところ交互作用が見られたため、単純主効果の検定を行った。その結果「精神的充足」「社会的適応力」とともにA小6月に比べて11月の得点が有意に上昇し ($p<.05$), かつB小に比べて高い ($p<.001$) が示された。

学校生活スキル尺度の回答については、時期(6月, 9月, 10月, 11月)を要因とする分散分析を行った。その結果、「集団活動のスキル」($p<.05$), 「コミュニケーションスキル」($p<.001$)の各得点において、6月に比して11月が有意に高かった。

3. 総合考察

学校行事は児童の期待度も高く、積極的な取組により「精神的充足」と「社会的適応力」を高め、集団活動やコミュニケーションのスキルを上昇させることが示唆された。

学校教育においても行事を意図的に取り上げ、実施までの過程を大事にして指導することが重要だと考えられる。

本研究では、児童の心理的要因に高い影響を持つと思われる教師と児童の相互作用について査定できなかったことが今後の課題であると考えられた。